

提出された意見と市の考え方

■提出された意見と市の考え方

No.	該当ページ	提出された意見	市の考え方
1	14	渥美半島アクションウィークの取組については中学校ではテスト週間などでタイアップできると思いますが、小学校を考えると、特別課題を用意するよりも、読書週間などとタイアップできるとよいと思います。	この取組は啓発的な活動であり、特別な課題を出すというようなことを想定はしていません。取組内容については、学校の考えが生かされるべきであると思います。読書をすることもたいへんよいことであると思います。「家庭学習に集中して取り組む」を「家庭学習や読書などに取り組む」という標記とし、柔軟な対応ができるようにします。
2	21	教育サポートセンターの相談員と学校の先生が頻繁に連絡を取り合うことが増え、学校のケース会議にも参加する場合もあるそうです。制度的に可能な状態にしていただけませんか。	現時点でも制度上可能です。御意見の内容は、個別の対応の問題であるため、計画案は原案のとおりとします。
3	22	スクールソーシャルワーカーが増えると、学校と外部機関との連携がさらにとりやすくなると期待しています。1年でも早く、人員が増えていくことを期待しています。	計画案にありますように、1名を配置し、その成果を検証したうえで、配置の拡大をしたいと考えています。計画案は原案のとおりとします。
4	18 24 25 28	避難所宿泊体験、学校を核とした地域魅力化事業について、4年間でどの学校も実施すると読むことができます。 また、中高連携、保小中が連携したキャリア教育についても、平成30年からは、高校の位置を考えると、田原中と福江中しか該当しないと考えますが、継続ではなく、入れ替えて実施していくことでしょうか。	学校を核とした地域魅力化事業については、子どもの自己有用感を育むために、多くの学校が取り組むことを考えています。「未実施校で実施」という表現が全校で実施するように読みとれるため、表現を修正します。 中高連携については、高校が中学校区にない場合でも、できる範囲で連携をしていきたいと考えています。保小中が連携したキャリア教育については、東部中学校区、赤羽根中学校区なども考えていますので、計画案は原案のとおりとします。

No.	該当 ページ	提出された意見	市の考え方
5	—	<p>田原市の財政が厳しい状況です。学校教育についても今までどおりに施策を行うことができない状況にあると考えます。この計画は、このような状況をふまえた計画となっているのでしょうか。</p> <p>これまでを踏襲した計画としか思われず、なんら新しさが感じられないものでしかありません。危機感が感じられない計画で、これからの計画の方向性が感じられない総花的な振興計画です。</p> <p>子供の減少、学校統合の進展、家庭教育の質の低下、地域コミュニティの再編、教員の多忙化、親子関係の希薄化、小規模な学校施設の老朽化等の学校を取り巻く教育の現状を把握し、財源が厳しい中、地域もふくめどう子供を育てていくかという道筋がみえない。もっと教育に夢がもてる振興計画となることを望みたい。</p>	<p>御意見のように、田原市の問題点や地域の特性を考慮して教育施策を行っていくことは大変重要であると考えています。特に、地域や家庭と連携し、ともに子どもを育てていく体制づくりは、重要な施策であると考え、1つの柱として取り上げました。</p> <p>田原市政及び教育全体に対する御意見であるため、計画案の変更は行いませんが、今後の学校教育に関する施策の参考にさせていただきます。</p>